

第10回日本地学オリンピック本選 「グランプリ地球にわくわく」報告

川辺禎久¹⁾

1. はじめに

2018年3月11～14日、つくば市で第10回目となる日本地学オリンピック本選「グランプリ地球にわくわく2018」（以下「日本地学オリンピック本選」）主催：NPO法人地学オリンピック日本委員会が開催されました。この日本地学オリンピック本選は2018年8月にタイで開催される第12回国際地学オリンピック二次選抜も兼ねており、産総研地質調査総合センターは特別共催として協力しています。地学オリンピックについての詳細は、2016年に三重県で国際地学オリンピック日本大会が開催された際のGSJ地質ニュース記事(久田, 2017; 高橋, 2017)をご参照ください。

日本地学オリンピック本選には、2017年12月に実施された全国1,903名の受験生から予選を通過した中高生62名(国際地学オリンピック代表対象外の中学1, 2年生3名含む)が参加しました。受験生は3月11日午後の

開会式と「とつぷ・レクチャー」聴講、翌12日に筆記および標本鑑定実技による選抜試験を受験します。13日午後には表彰式で成績優秀者が発表されます。選抜試験と表彰式の合間には、筑波研究学園都市にある研究機関の見学や、国際大会参加OBや筑波大学留学生との交流会などにも参加します。これらを通じて、受験生に研究最前線を体感していただくのも目的の一つです。

2. 「とつぷ・レクチャー」講演会

日本地学オリンピック本選では毎年つくばの地学関係研究機関研究者による「とつぷ・レクチャー」が開催されています。今年の本選日程初日の3月11日午後以下に4件の講演がつくば市の筑波学院大学で行われました(写真1)。

1. 鎌田祥仁氏(筑波大学)：「小さな化石から探る大陸と古海洋の変動」



写真1 筑波大学・鎌田氏による「とつぷ・レクチャー：小さな化石から探る大陸と古海洋の変動」講演。

1) 産総研 地質調査総合センター 研究戦略部

キーワード：地学オリンピック、地学教育、地質標本館、自然科学、普及活動

2. 甲能直樹氏 (国立科学博物館) : 「ゾウがまだ海棲哺乳類だった頃!? - 世界最古の化石が語る長鼻類の適応進化 - 」
3. 藤原 智氏 (国土地理院 地理地殻活動研究センター) : 「『動く断層』と『動かされる断層』 - 熊本地震の地殻変動からわかってきたこと - 」
4. 高橋雅紀氏 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター) : 「厚紙模型でひも解く日本列島地殻変動の謎」

「とっぷ・レクチャー」は、本選受験生の他に一般の方も聴講可能で、当日は合わせて150名ほどの方が参加しました。どの講演も最前線の研究者による最新の研究成果紹介で、聴講した受験生は教科書では知っていたけれど、またはこれまでの常識と異なる点も多い最新の研究成果に触れて、多くの質問が飛び交うなど大変刺激を受けたようです。今回、産総研地質調査総合センターから講演を行った高橋氏は、「とっぷ・レクチャー」初めての試みとして高橋氏の作成した厚紙模型の作成を講演に取り入れました。複雑な地学現象を理解し、それを模型を通じて再現することは、高橋氏が長年行ってきた研究の成果です。講演内容を含むNHK番組「ジオ・ジャパン」を視聴していた受験生も多く、手を使って模型を作ることで、放送内容がより理解できたとの感想が見られました。

3. 地質標本館見学

13日午前には希望者を対象として、地質標本館の見学が行われました。参加した受験生21名を3班に分け、地質標本館室のスタッフがそれぞれの班に1名ずつ付いて館内展示物の解説を行いました。さすがに地学オリンピックに挑戦しようという意欲が高い受験生ですので、鋭い質問も数多く繰り出されていました。教科書でしか見たことがない標本や、教科書だけではわからない、知らなかった事象や成果を直接目に触れ、しかも質問もできることがうれしかったとの感想も聞くことができました。

4. 表彰式

13日午後にはつくばカピオホールで成績優秀者の表彰式が行われました。表彰式では総合成績上位30名に10名ずつの区切りで金賞、銀賞、銅賞が与えられ、さらに総合成績最優秀者などに共催団体から特別賞が贈られました(写真2)。本選の結果は「第10回日本地学オリンピック本選結果」ホームページ(地学オリンピック日本委員会、

2018a)でご覧になれます。

例年産総研からは、化石や鉱物の標本鑑定実技試験部門の成績最優秀者に「産総研地質調査総合センター賞(GSJ賞)」として賞状と副賞を授与しています。今年は筑波大学付属駒場中学校3年の大野浩輝さんが受賞し、矢野地質調査総合センター長代理として出席した佐脇地質情報基盤センター長から賞状並びに副賞として栃木県塩原の木の葉化石を含む岩石標本が贈呈され、お祝いの言葉がありました。大野さんはGSJ賞だけでなく、中学生の最優秀成績者(つくば科学万博記念財団理事長賞)や高校生を含む全受験生の総合成績でも2位(つくば市長賞)を受賞し、金賞(代表選考出場者)を含み計4種類の表彰を受けており、将来が楽しみな中学生です。最優秀成績者に与えられる茨城県知事賞は栄光学園高校2年の田中 匠さんが受賞しています。この日本地学オリンピック本選後、国際地学オリンピック代表選抜が行われ、3月19日に田中さんはじめ4名の日本代表が決定しています(地学オリンピック日本委員会, 2018b)。彼らは合宿研修などを経て8月の第12回 国際地学オリンピック(タイ大会)に挑みます。彼らがつくばで経験したことを活かして、良い成績を上げることが期待します。

5. おわりに

日本地学オリンピックに挑戦する受験生数は年々増え、今回の第10回日本地学オリンピック予選受験生数はこれまでで最も多い1,900名を超えるところまで増えてきました。高校で地学を履修することが難しい現状があまり変わっていないにもかかわらず、受験生が増えていることはとても頼もしいことと言えます。代表に選ばれた4名をはじめ、地学オリンピックに挑戦した全国の中高生の中から将来の地球科学を担う研究者が誕生することを期待します。

なお、地学オリンピックに関する情報は以下のURLをご参照ください。

NPO 法人地学オリンピック日本委員会 : <http://jeso.jp/>

文 献

- 久田健一郎 (2017) 国際地学オリンピック日本大会を終えて. GSJ 地質ニュース, 6, 22-24.
- 高橋雅紀 (2017) 地質学における次世代育成 - 地学オリンピック合宿研修 -. GSJ 地質ニュース, 6, 15-21.



写真 2 日本地学オリンピック本選総合成績上位 10 名と参列者の記念撮影の様子。

地学オリンピック日本委員会 (2018a) 第 10 回日本地学
オリンピック本選結果, <http://jeso.jp/jeso/final.html>
(2018 年 5 月 23 日確認)

地学オリンピック日本委員会 (2018b) 「第 12 回国際
地学オリンピック (タイ大会)」の日本代表が決定,

<http://jeso.jp/ieso/senbatsu.html> (2018 年 5 月 23 日
確認)

KAWANABE Yoshihisa (2018) Report of the 10th Japan
Earth Science Olympiad.

(受付: 2018 年 6 月 18 日)